



## ご挨拶

今日は“*A-Winds42*” 2014年 春の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月“アンサンブル”という少人数の音楽スタイルの延長上に位置付け“ウインドオーケストラ”と称し、大人数編成で、遷都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催、以後四季折々に開催する、*A-Winds*の定期演奏会も、第42回目を迎えることができました。これもひとえに、我々 *A-Winds*の活動、そして共に音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

演奏面は勿論、運営面においても、団員一人ひとりが『主人公』として吹奏楽本来の特徴を最大限に引き出す『吹奏楽オリジナル作品』を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、音楽表現の研究に、作曲家の方々を練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙にも取り組み、活動を続けて参りました。

今回は、オーケストラ、吹奏楽団、ビッグ・バンド、アンサンブル、ソロにとあらゆる音楽ジャンルにおいて、第一線で活躍されているトロンボーン奏者の松下浩之氏を、ソリストとして、また客演指揮者としてお招きさせていただきました。奏者としての才能は勿論のこと、指揮者、作曲、編曲、ピアニスト、イベント企画、プロデューサー、ディレクター、講演、審査員、執筆、乗馬……とマルチに活動にも取組まれ、まさに音楽界をあらゆる姿で行き来し、お客様のことを驚づかみにする《音楽界の快人二十面相…》

泥棒さん タキシード着て おもてなし♪

その類稀なる才能を客席の皆さまと一緒に満喫を、という何とも贅沢な *A-Winds*初の企画！乞うご期待です。

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷 昌克

\*

今日は、“*A-Winds42*” 2014年 春の演奏会へお越しいただき、ありがとうございます。本日、皆さまとお会いできた事を団員一同、嬉しく思っております。

今回の演奏会は、トロンボーン奏者の松下浩之さんを客演でお迎えし、松下さんによる指揮とトロンボーン演奏の両方で吹奏楽の魅力を幅広くお届けできれば、との想いで企画いたしました。

演奏会はヤン・ヴァン・デル・ロースト作曲「オリンピカ」の打楽器と金管楽器による迫力のファンファーレで幕を開けます。華やかで心躍る雰囲気と穏やかな雰囲気と併せ持つこの曲に続き、木管楽器の流れるような旋律や全員合奏のまるでお祭り騒ぎを彷彿とさせる賑やかさが魅力のロバート・ラッセル・ベネット作曲の「吹奏楽のためのシンフォニックソング」。第一部ではこれらの名曲を松下さんの指揮で披露いたします。

プログラム最後に演奏いたします「トロンボーンのためのカラーズ」は、テーマとなる4つの“色”の世界をトロンボーン豊かな音色に乗せてお届けします。幻想的で美しいメロディによって、皆さまに“カラフル”なお気持ちになって頂けるよう、心を込めて演奏いたしますので、最後までごゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。

最後に、本演奏会開催にあたり関係者各方面よりご支援賜りました事を、演奏会実行委員を代表して心より御礼申し上げます。

“*A-Winds42*” 2014年 春の演奏会 実行委員長 森本幸恵・岸本 和



## ご案内

### “*A-Winds43*” 2014年 夏の演奏会

2014年7月6日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール 大ホール

“*A-Winds43*” 2014年 夏の演奏会では、主にイギリス出身の作曲家による、吹奏楽界ではまさに「王道」ともいえる名曲の数々を集めました。イギリスの民謡や舞曲を主題とするG.ホルストの『吹奏楽のための第二組曲』ほか、華やかなオープニングや静かで美しいコラルなど。イギリス情緒あふれるメロディーを揃え、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

“*A-Winds43*” 2014年 夏の演奏会 実行委員長 尾登 勇介



## *A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ

### Flute & Piccolo

佐藤 由加里  
佐藤 司  
魚谷 陽子

### Oboe

桶谷 牧子

### E♭ & B♭ Clarinet

長尾 恭子  
竹村 明恵  
森本 幸恵  
日野上 昌里佳  
近藤 晴美  
米田 彩乃  
上野 彩香

### Alto Clarinet

大西 晴己

### Bass Clarinet

辻田 綾子

### Bassoon

満江 孝文  
萱原 美華子

### Alto Saxophone

八木 理  
三宅 利幸☆

### Tenor Saxophone

島田 博一

### Baritone Saxophone

初岡 和樹

### Horn

久野 耕三(休団)  
大田 雅美  
佐伯 直人  
富川 陽太  
村上 和代☆

### Trumpet

魚谷 昌克  
表 恭子  
竹腰 綾香  
井上 寛治  
谷田 弥生  
鎌田 麻友  
山本 洋介

### Trombone

萱原 淳嘉  
小泉 文浩  
進藤 梓  
田中 由美  
木下 真由美

### Euphonium

藤村 晃世  
尾登 勇介  
池内 砂織

### Tuba

岸本 和  
深沢 陽介☆

### Contra Bass

佐藤 良一

### Percussion

久保 寛美  
川本 理恵  
松嶋 春香  
浦野 佳美  
梶本 雅子

### Piano

八木 真木

### Stage Manager

河津 雅之☆

### Announce

境 貴子☆

団員 = 46名

☆ = エキストラ / 5名

### “*A-Winds42*” 2014年 春の演奏会 実行委員

実行委員長	森本幸恵	岸本 和
宣伝 (チラシ)	大田雅美	八木真木
宣伝 (ミニレター)	進藤 梓	辻田綾子
宣伝 (ウェブ)	八木 理	
宣伝 (マスコミ)	桶谷牧子	
プログラムノート	佐伯直人	
渉外	岸本 和	
印刷	浦野佳美	

2014年3月9日(日) 13:30開場 / 14:00開演  
やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ○ *A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ  
後援 ○ 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



第1部 客演指揮：松下浩之

祝典序曲「オリンピカ」

OLYMPICA ~Festival Overture for Band~

◇作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト/Jan Van der Roost

◇出版：DE HASKE Music Publishers Ltd.,

◇演奏時間：約11分

1992年に長野市民吹奏楽団創立20周年を記念して委嘱された作品です。長野五輪(1998年)のために作曲されたと紹介されることもあるようですが、Olympicaという曲名は出版の際につけられたようです。

曲は3つの主題から構成されており、最初の部分は木管楽器と打楽器の流れるような伴奏に包まれながら、金管楽器が壮麗なファンファーレを奏で、次に、木管楽器による技巧的で躍動的なメロディーが現れます。

第3のテーマはコラル風クラリネット、サクソフォーン、中音域の金管で奏され、長野市近郊の自然、情景がイメージされているものだそうです。更に、ソロ楽器による「室内楽的パッセージ」の後、アレグロが再現され、3つの主題が織り込まれた壮大なエンディングに流れ込み、幕を閉じます。

ヤン・ヴァン・デル・ローストらしい華麗なオーケストレーションで、輝かしく華やかな曲調は演奏会のオープニングに相応しい作品と言えるでしょう。

(長野市民吹奏楽団ホームページより抜粋)

吹奏楽のためのシンフォニックソング

SYMPHONIC SONGS FOR BAND

◇作曲：ロバート・ラッセル・ベネット/Robert Russell Bennett

◇出版：HAL LEONARD PUBLISHING CORPORATION

◇演奏時間：約15分

1894年アメリカ生まれのロバート・ラッセル・ベネットはこの作品について自ら次のように話しています。

「シンフォニック・ソングは歌であり、また同時に舞踏組曲もしくは情景の曲でもある」

彼の頭の中にはどのような情景が浮かんでいたのでしょうか。三つの楽章からなるこの作品は1957年、アメリカの学生団体の委嘱により作曲されました。

第一楽章 セレナーデ

セレナーデはゆったりしたテンポで甘い旋律を歌うものですが、この楽章では木管楽器が複雑なリズム伴奏に乗せて旋律を歌うことから、一味違ったセレナーデと言えるでしょう。

第二楽章 スピリチュアル

黒人霊歌として有名なスピリチュアルは、アメリカの奴隷制度、キリスト教と彼らの故郷であるアフリカの音楽を融合したものです。物静かで力強い、祈りの歌と言えるでしょう。

第三楽章 セレブレイション

陽気なお祭り騒ぎは「祝典」のタイトル通りです。メロディは“The Old Gray Mare/年老いた牝馬”として知られるアメリカ民謡です。賑やかに踊りの輪が広がる情景が目に見えそうです。

第2部 団員指揮：魚谷昌克

ブラボー・ブラス!

Bravo Brass!

◇作曲：星出尚志/Takashi Hoshide

◇出版：BRAIN Co., LTD.

◇演奏時間：約5分

「ブラス喝采！」という意味の語呂合わせのタイトルであるこの曲は、ブロードウェイミュージカル等に代表されるショーミュージックをイメージして作られました。

ショーミュージックは視覚的な華やかさもさる事ながら、音楽的にも魅力に富んでいて吹奏楽にもよく合います。

まずトロンボーンの音色で華やかに曲が始まります。メインテーマに引き続き弦楽器のピチカートをイメージしたテーマ、ワルツのゆったりとしたテーマ、そして、スウィングの乗りの良いテーマと次々と曲想が変わり演奏されます。

トロンボーンのための「カラーズ」

COLORS for Trombone

トロンボーン・ソロ：松下浩之

◇作曲：ベルト・アッペルモント/ Bert APPERMONT

◇出版：Beriato Music

◇演奏時間：約16分

この作品は、1998年、ベルギーのトロンボーン奏者であるBen Haemhoutsのために作曲されました。

作曲者であるベルト・アッペルモントは、この曲「カラーズ」に二つの想いを乗せたかったと語っています。一つは「黄」、「赤」、「青」、「緑」という4つの色彩を、それぞれの色が持つ特有のイメージや、連想される情感を巧みにからみ合わせたトロンボーン協奏曲とすること。それゆえ各楽章には色彩をもとにした名前が付けられています。

1楽章 YELLOW：奮い立たせ、感動を与える(英知と煌めきの象徴)

2楽章 RED：劇的で激しい戦いをも連想させる、躍動感あふれる熱情的な展開(勇気と未来をつかみ獲る力の象徴)

3楽章 BLUE：哀愁を帯び、夢見心地で内省をうながす(真理と安寧の象徴)

4楽章 GREEN：希望に満ち溢れ、大いなる可能性を感じる(平穏と調和の象徴)

そしてもう一つは、あるトロンボーン奏者の死からインスピレーションを得ていることです。彼の人生の終焉に向かう激しい苦闘の様子が2楽章の結末部分にしたためられているのです。

曲調としては、「C-D-G(ド-レーソ)」の3つの調を様々な手法で重要な旋律に盛り込むことで、曲全体に統一感を持たらしています。そして、トロンボーンを持つ可奏音域の全てを使い、様々な音質、音色を駆使することで、この楽器の持つ色彩感豊かな魅力を余すことなく表現した作品です。

(ベルト・アッペルモントのホームページより抜粋)



松下 浩之 プロフィール

1964年、神戸に生まれる。幼少より音楽に興味を持ち、6歳よりエレクトーンを始め、10歳で演奏活動を開始。中学校で吹奏楽部に入部。トロンボーンに出会う。この頃から約10年間にわたってピアノ、エレクトーン、作・編曲法、音楽理論、ソルフェージュなどを藤澤 功氏に師事する。高校時代より学生指揮を務め、数々のアレンジを手がける。1983年、大阪音楽大学音楽学部器楽学科トロンボーン専攻入学。トロンボーンを故 土橋康宏、呉 信一の両氏、室内楽をダニエル・ドワイヨン氏に、特別指揮法クラスで辻井清幸氏に師事。在学中、大阪音楽大学吹奏楽研究会常任指揮者を2年間務める。これまでに、プラニミール・スローカー、デニス・ウィック、ミシェル・ベッケ、クリスティアン・リンドベルイ各氏のマスタークラス、ハリー・リース、ミヒャエル・ユングハンス、新井英治、萩谷克己、故 白石直之の各氏のレッスンを受ける。在学中よりオーケストラ、吹奏楽団、金管バンド、ビッグ・バンド、ライブハウスなどのエキストラ奏者として、さらに指揮、作曲、編曲、またイベントの企画、プロデューサー、ディレクター、講演、審査員、執筆・・・とマルチに活動。

1987年より大阪音楽大学非常勤教育助手を1年間務め、1988年、大阪市音楽団に入団。1992年、第44回プラハの春国際音楽コンクール(於チェコ) 入選。同年、第1回全日本フランス音楽コンクール 審査員賞(管弦打楽器最高位) 受賞。1993年、第2回全日本ソリストコンテスト奨励賞受賞。第1回大阪国際室内楽コンクール入選。

1994年度、月刊「バンド・ピープル」誌に「スペシャルエッセイ」を1年間執筆。2008年、イヴリズ・ジラル女史(仏)とトロンボーン・デュオによるコンサートを開催。以来、毎年共演する。2009年、WDRケルン放送交響楽団トロンボーンセクションと共演。また同年、ハリー・リース氏率いるwes10(金管アンサンブル)のドイツツアーに参加。現地紙にて高く評価される。同年度、月刊「バンド・ジャーナル」誌の「演奏に役立つOne Point Lesson」の講師を1年間勤める。2011年、神戸にて、ドイツ作曲家の作品のみによるリサイタルを開催。2013年、大阪市音楽団退団。

マウスピースメーカー willie'sよりシングネチャーモデル“Art's Opus”を発表。各雑誌に大きく取り上げられる。

現在、神戸山手女子高等学校音楽科講師。ESA音楽学院講師。MAH TRIO、Apollo Trombone Quartet、H.G.Q. After Hours Sessionなどのメンバー。伸縮倶楽部主宰。日本トロンボーン協会会員、関西トロンボーン協会理事。ほたる火コンサート協会会員。福祉の管弦楽団「まごころ」音楽監督兼常任指揮者。1992年より大阪府立大学吹奏楽部トレーナー。



A-Winds メンバー募集

●募集パート

- Flute ・ Oboe\* ・ E<sup>b</sup> Clarinet ・ Bass Clarinet ・ Baritone Saxophone
- Bassoon ・ Contra Bass ・ Percussion ・ Stage Manager————— 各1名
- Tuba ・ Horn————— 2名
- Bb Clarinet————— 4名

\*イングリッシュホルンも演奏できる方、イングリッシュホルンをお持ちの方、大歓迎です！まずはご相談ください！

- A-Winds の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 18歳以上の方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp

募金のお礼とご報告

A-Winds では演奏会開催ごとに「東日本大震災の義援金」を募っております。前回の演奏会、2013年10月27日開催のA-Winds 41では18,633円の募金をお預かりしました。

また、募金を開始した2012年11月4日のA-Winds 38では20,407円の、続く2013年3月3日のA-Winds 39では5,733円、2013年6月23日のA-Winds 40では3,228円の募金をお預かりしました。

皆様からいただいた貴重な義援金は、演奏会終了後にA-Winds が責任を持って日本赤十字社の義援受付口座に全額を振り込んでおります。

募金にご協力いただいた多くの方々、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。